

平成17年度試験研究成果書

区分	指導	題名	生産技術体系の策定	
[要約] 経営環境の変化に対応し、新たな生産技術体系を策定するとともに想定する営農計画の経営試算を簡易に行える営農計画作成支援シートを作成した。				
キーワード	生産技術体系	経営設計	営農計画	企画経営情報部農業経営研究室 関係部(所) 関係研究室

1 背景とねらい

平成8年に策定された生産技術体系は、農家の経営指導や行政機関の計画策定などに活用されているが、策定から8年経過し、米価低迷、担い手への施策の重点化、農産物貿易の進展など、農業を取り巻く情勢が大きく変化するとともに技術革新も進んでいる。このため経営環境の変化に対応した技術体系を策定する。

2 成果の内容

(1)策定した生産技術体系

ア 地域や経営体の実情に応じた修正が容易にできるよう、作型、栽培様式、想定規模等の前提条件と技術体系表、収支データを統合的にデジタル化した。

イ 今回策定した生産技術体系数は51品目、117体系(表1)であり、前回策定した生産技術体系の販売価格、資材価格等を見直すとともに、新たに水稻直播、ヒエ、ブルーベリー、アルストロメリア、パンジー、特産肉用鶏を追加した。

(2)営農計画作成支援シート

ア 想定する営農計画の経営試算を簡易に行うため、生産技術体系の番号と設計規模(作付面積、飼養頭羽数)を入力することにより所得や労働時間等を試算計画法で計算・表示するシートをMS-excelで作成した。(図1)

イ 経営実態に応じた機械経費を算出するため、各生産技術体系で採用した機械個々の使用割合を入力することとしている。

ウ 大規模経営にも適応できるよう、経営体の労働力条件(人数、労働可能時間)、雇用労賃単価、地代単価、借地面積を入力することにより、雇用労賃と支払地代を差し引いた後の所得額を計算出来る。

(3)作目別収益性

今回策定した技術体系について10a当たり所得、10a当たり労働時間から見た作物別収益性を図2に示す。

3 成果活用上の留意事項

(1)生産技術体系利用の際には、登録されている採用技術や機械装備などの内容を確認の上、経営体や地域の実情に応じて修正すること。

(2)営農計画作成支援シートにおいて、機械償却費は耐用年数の実態を踏まえ、法定耐用年数を1.5倍した値で計算しているが、必要に応じ法定耐用年数で計算した値も採用できる。

(3)今回策定した生産技術体系と支援シートは、CDに記録し関係機関に配布する予定である。

4 成果の活用方法等

(1)適用地帯又は対象者 指導・行政機関等

(2)期待する活用効果 経営計画策定、営農類型策定、集落営農計画策定への活用が期待される

5 当該事項に係る試験研究課題

(H16-02-1000)「生産技術体系データベースの構築」(H16~H17, 県単)

6 参考資料文献

生産技術体系 - 農業経営の設計指標 - , 1996, 岩手県農政部

7 試験成績の概要

表1 技術体系策定作目(品目)

作目	野菜																	畜産				計						
品目	水稲	小麦	大豆	ヒエ	ソバ	きゅうり	トマト	ピーマン	ほうれんそう	レタス	キャベツ	ねぎ	だいこん	ナガイモ	なばな	えだまめ	いちご	にんじん	煙草	しゅんぎく	葉たばこ	根みつば	ミニトマト	なす	さといも	スイートコーン	アスパラガス	ブロッコリー
体系数	7	2	2	1	1	1	5	3	3	8	5	5	3	5	1	1	2	5	1	2	1	1	1	1	1	1	3	1
りんご	ぶどう	西洋なし	おうとう	ブルーベリー	りんどう	トルコギキョウ	小ぎく	スプレーギク	グラジオラス	スターチス	ゆり	アルストロメリア	アネモネ	シクラメン	ストック	パンジー	葉たばこ	ホップ	酪農	肉牛繁殖	肉牛肥育	養豚	特産鶏					51
6	3	1	1	1	7	1	2	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1	2	4	2	1	1				117	

体系No	2	8	当農類型合計
体系名	水稲(ひとめはれ、あきたこまち、大区画・移植, 15ha規模, 北上川中・下流域)	小麦(ナンプコムギ, 水田転作, 1ha規模, 北上川中・下流域)	2,200a
設計規模(a,頭)	1500	700	0頭(別)
収量	540	360	
販売単価	261	168	
副産物・受託等	1,350	13,000	
粗収益	21,348,900	5,135,313	26,484,213円
変動費計	62,745	28,271	
施設費2	1,479	0	
費用	64,224	28,271	11,612,480円
割合費用計	9,633,544	1,978,936	
旬別労働時間			
1/上	0.00	0.00	0.00hr
1/中	0.00	0.00	0.00hr
1/下	0.00	0.00	
計			9.58hr
12/中	0.00	5.83	5.83hr
12/下	0.00	0.00	0.00hr
計	1,517.05	230.59	1747.64hr

前提条件		
主たる従事者数	1人	4,400,000円
従たる従事者数	1人	1,100,000円
合計	2人	5,500,000円
労働時間	2,100時間	1,300時間
合計		3,400時間
農業粗収益	26,484,213円	
産地づくり交付金等	円	
収益合計	26,484,213円	
費用		
機械を除く物販費	11,612,480円	
減価償却費(実耐用年数法)	6,451,944円	
雇用労賃	20,749円	
支払い地代	1,300,000円	
経営面積	2,200 a	
うち借地	1,000 a	
費用合計	19,385,173円	
所得額(経営全体)	7,099,041円	
延べ雇人数(8時間換算)	4人	
要調整労働時間	0	0
調整後労働時間	1,717	31

図1 営農類型作成支援シート

注)実際のシートを、適宜略していること

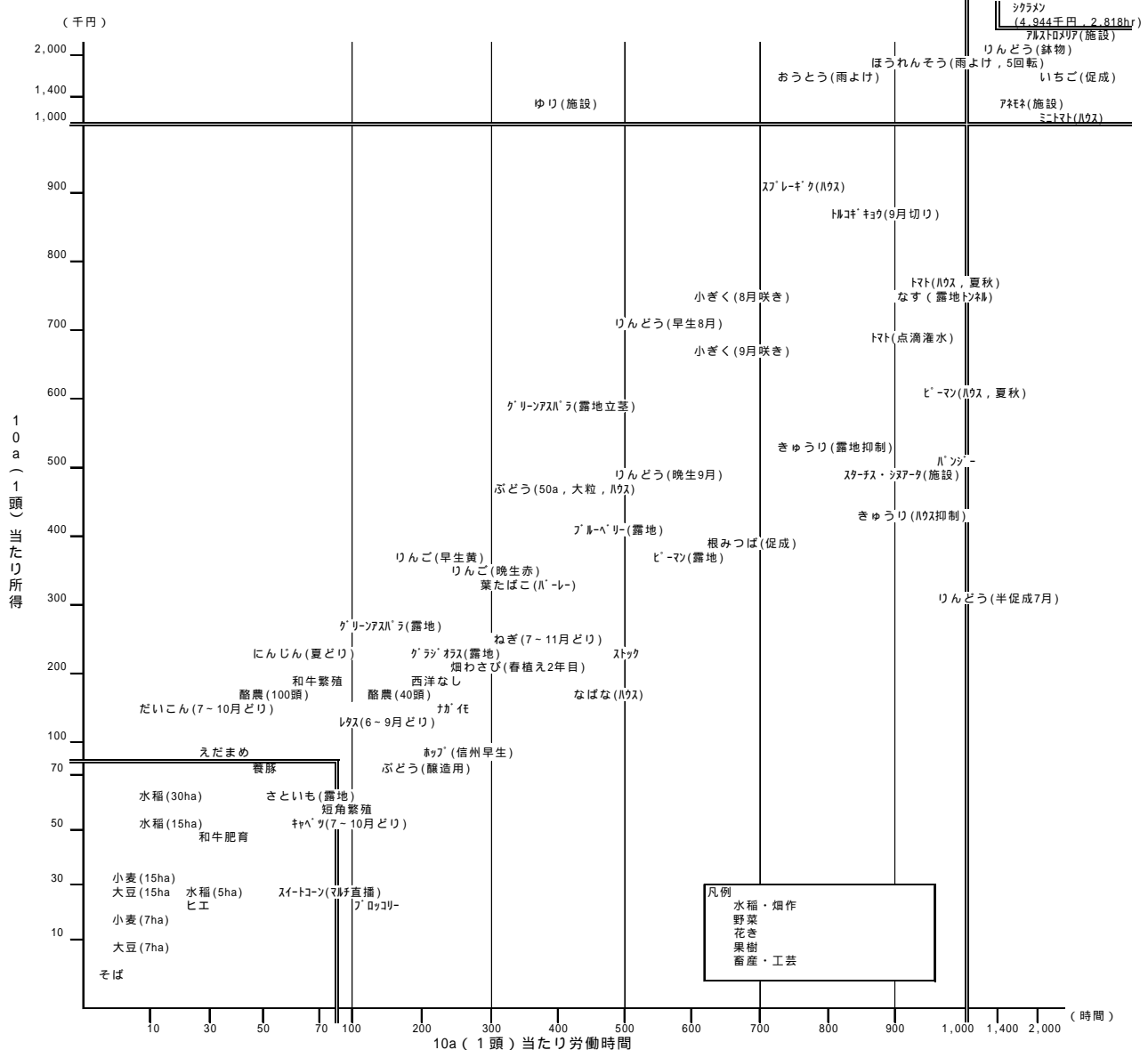


図2 作目別収益性